

時計台に
大学博物館
開館



高木 香奈子
(大学博物館学芸員)

2014年9月28日、関西学院の創立125周年の記念日に大学博物館が開館しました。博物館が設置された時計台はかつて、1929年の上ヶ原移転に際してW.M.ヴォーリズ的设计で建てられた図書館でした。図書館としての役目は既に終えましたが、甲山を背景に清然と建つ姿は今もなお関西学院のシンボルとして親しまれ、2009年には国の登録有形文化財にも登録されています。キャンパス内の一等地ともいえるこのような場所で博物館が行っている活動のひとつ、展覧会について今回はご紹介します。

◆平常展と企画展

大学博物館では、平常展と企画展の2種類の展示を交互に開催しています。平常展というと、一般的には博物館の収蔵品と寄託品を中心とした展示品が専用の展示室に陳列されており、来館すればいつでも見ることができるというのですが、関学の場合は少し違います。平常という名称をつけながら常時ご観覧いただくことができないのです。時計台という歴史ある建物を活かしながら、限られたスペースで展示室を設けたため、平常展と企画展は同じ展示室で時期を替えて開催しています。企画展は春学期と秋学期に1回ずつの開催を目途に、博物館や学院が所蔵する資料を中心に歴史、文化、美術など様々なテーマで展覧会を企画し、資料を公開します。一方、平常展は企画展が開催されていない間の展示室を使って、年3回程度の展示替えを行いながら学院の歴史や伝統を知っていただくための展覧会として開催しています。

◆平常展「関西学院のあゆみ」

大学博物館の最初の展示は「未来への125年—関西学院のあゆみ—」と題する平常展でした。この展示は関西学院の125年に及ぶ歴史を過去からの贈り物と捉え、節目を迎えた関西学院が新たな一步を踏み出そうとする時、過去がどうあったかを知ることでこれから築く未来をどのようにすべきかを考えようというメッセージが込められています。草創期の苦しい時期を支え、学院の気風や精神的な礎を築いた4人の院長、その家族や学生との関わり、今も昔も多感な時期を過ごす学生たちの姿を数々の写真や資料によって振り返りました。そのなかには変わりゆくものとともに受け継がれるものがあることに気付いていただけたことと思います。125年の歴史をわずか2室の展示室で見ていただく盛りだくさんの内容でした。この展覧会を基に今後の平常展が作られます。

5月初旬まで催された第2回平常展は「Gift for the Future 関西学院のあゆみ—学院創立にかけた情熱—」として、創立直前から高等学部ができる頃までの最初の約25年に焦点を絞り展示しました。4月は新入生やその親御さんが見に来てくださる機会が多いので、学院の根本ともいえるこの時代の出来事を見ていただきたいという思いがあるからです。この展覧会では、特集陳列として時計台を描いた絵画作品も展示しました。**次回の平常展は7月27日～10月10日の日程で、新制中学部の誕生と草創期をテーマにした展示を開催します。**1-4期生が集めた貴重な資料をもとに戦後の関西学院で少年たちの教育に情熱を燃やした先生と生徒たちの姿をご観覧いただく予定です。

このように学院の歴史という大きなテーマの中で展示替えを行いながら時期を区切って見ていただくのが大学博物館の平常展です。博物館の展示は資料を単に並べるといっただけでは成り立ちません。資料のつながり、わかりやすさ、そして見た目の華やかさや面白さにも配慮しなければいけません。限られた資料と展示スペースをパズルのように上手く嵌るところを探して組み替える作業の連続です。苦労は多いですが、展示を通して今は直接教えを請うことのできない先生方や諸先輩の姿を知り、学院に少しでも親しみと愛情を持っていただければとても嬉しいことです。是非大学博物館に足を運んでみてください(開館は原則として月～金:9:30～16:30、入館は16:00まで。日曜・祝日閉館)。



『学院史編纂室便り』第41号(2015年6月15日)
関西学院大学 学院史編纂室 〒662-8501 西宮市上ヶ原 1-1-155
TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462
<http://museum.kwansei.ac.jp/archives/> リニューアル!